平成２７年度　大東中学校区（大東小・大平小・大東中）　学校関係者評価書

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
知に関する内容	１「読み」「書き」「計算」「話すこと」の到達目標を基に、基礎学 力の向上を図る。	○学期ごとの観点別評価で「おおむね達成」と評価できる児童が８０％以上を達成する。	大東小	・朝の活動や授業の中での取組を通して、すらすら読める児童が以前より増えてきた。特に、朝の音読タイムは学級担任以外の職員が指導に加わり、多様な指導を受けることで普段より積極的に音読する姿が見られた。一方で文字を読むことに抵抗感のある児童もおり、支援が必要である。 ・web学習やプリント問題を各学年の実態に応じて取り組んできた。成果はまだ見られないが、続けることで、現状からの基礎学力の向上を目指したい。	３	３	３	・各学校、基礎学力向上のために工夫された取組を実践し、全職員で指導がなされていた。 ・国語だけでなく、他の教科書も読ませることにより、ことばに対する関心が深まるのではないか。 ・「書くこと」は確実に身についてきていると感じる。
			大平小	・研究授業を通して、「わかる授業」の具体的な実践を、職員間で共有することができ、日常的な指導に取り入れることができつつある。 ・朝自習や業間では、練習問題に取り組み、基礎基本の定着を図ってきた。	３			
			大東中	・「計算力」向上を重点課題とし、ＳＳＢ（数学の個別の補充学習）を全職員で実施し、基礎・基本の定着を図る取組として継続していきたい。 ・「朝の読書」「読書カード」など読書の取組が習慣化し、少しマンネリ化してきている。 ・人前で発表することを苦手とする生徒の状況が着実に改善され、自信をつけてきている。 ・「書くこと」については、作文・感想など書く機会を設けることで、能力を高めてきており、内容の改善・指導を継続していきたい。	３			
		○各学年ごとに必要な家庭学習の時間を８０％以上の子どもが達成する。 【家庭学習時間】 □大東・大平小 学年×15分 □大東中 ２時間以上（※テスト前） 学年＋１時間	大東小	・家庭学習に取り組むことは概ねできているが、なかなか定着できない児童もいる。児童の自己評価及び教師の評価を合わせて７３％の達成率であり、取組に個人差があることが分かる。担任による本人への指導や家庭への呼びかけも行っているが、改善は十分でない。保護者を含めて、家庭学習に対して、さらに高い意識をもたせるが課題である。	２	２	２	・家庭との連携が難しいと思うが、各学校工夫されている。今後、更なる工夫を期待する。 ・中学生には、各自一週間のタイムスケージュールを作らせ、宅習できる時間を自分で気づかせたらどうか。
			大平小	・各家庭へ家庭学習の手引きを配付し、家庭との連携を図りつつ、児童へ家庭学習の状況が分かるアンケートを実施し、個別の結果をレーダーチャートにした下敷きを配付することで、日常的に家庭学習の取組を意識できるようにした。今後は、手引き等の配付物の活用状況を把握し、家庭学習の一層の充実を図る手立てを講じていく必要がある。	３			
				・「宅習ノート」の取組など家庭学習の習慣化				

			大束中	を図っているが、３年生以外は、平日２時間以上の家庭学習の目標が達成されておらず、全学年で定期テストへの取組も不十分である。また、課題・宿題を忘れる生徒が固定化しており、その指導が課題である。	1			

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
徳に関する内容	１基本的な生活習慣や社会的マナー･エチケットを身に付けた子どもの育成を図る。	○誰にでも明るく元気のよいあいさつができる子どもの割合が８５％以上を目指す。 ○返事ができる子どもの割合が８５％以上を目指す。	大束小	・朝学校に着いたときの職員に対するあいさつはずいぶんよくなっている。児童の意識調査でも８４％の達成率であった。一方で、場面や相手にあわせたあいさつの仕方を指導する必要がある。また、返事も相手に届くように大きな声ですることが課題である。	3	3	4	・各学校とも全体的に年々良くでなってきている。
			大平小	・全校で集まる場では、常に反応を意識させるように言葉かけを行い、望ましい反応の仕方を練習させたりすることで、自然と返事や返答ができるようになりつつある。今後も指導を継続しつつ、自然な挨拶や返事が出来るように育成していきたい。	3			
			大束中	・生徒会が主体となり、月に1回あいさつ運動を実施した。「あいさつ」に関する自己評価も高く、返事（反応）についても改善が見られ、生徒も自信をつけつつある。	4			
		○相手に対し思いやりのある言葉遣いができる子どもの割合が８０％以上を目指す。	大束小	・友達間での馴れ合いが強く、呼び捨てが多く見られる。また、言葉づかいに対する意識調査も４４％という低い達成率であった。「きまりを守ること」や「友達を大切にすること」という視点で、正しい名前の呼び方を今後も指導していく。	2	2	3	・親しくなると、ニックネームで呼び合うこともあるが、相手を思いやる正しいことばの使い方の指導は大切だと思う。 中学生は、生徒会が中心となって、具体的な取組を設定したことは、素晴らしい。
			大平小	・ソーシャルスキルタイムの事前に、職員間で、今の児童に必要なスキルは何かを確認して、タイムリーな指導を心がけてきた。また、全校一斉で指導を行うことで、事後の見守りも全職員で学級や学年の枠を超えて指導することが出来たので、指導内容の定着が見られた。今後は、校内に限らず、どのような場面でも円滑なコミュニケーションがとれるような指導を推進していく必要がある。	3			
			大束中	・「思いやりある言葉遣いができている」と答えた生徒の評価は、生徒会が具体的に取組を設定したこともあり、自己評価が低調であり、課題である。	2			
	２自ら考え、進んで行動し、何事にも積極的に取り組む子どもの育成を図る。	○学校行事等に主体的に活動するとともに、委員会活動や係活動に積極的に取り組める子どもの割合が８５％	大束小	・当番活動や委員会活動は、与えられた仕事を一生懸命がんばる姿が見られる。しかし、個人差もあり、児童全体の意識調査では７５％の達成率であった。今後は、活動に対して、児童が自己決定をする場を与えながら、自分から気付き、主体的に活動する力が育つように取り組んでいく必要がある。	3			・各学校とも指導が行き届いている。 ・一人一人が、積極的に取り組んでいる姿が見られた。

		以上を目指す。	大平小	・清掃の時間等には、上学年が下学年に指示を出したり、掃除の仕方を教えたりする場面も見られるなど、自ら考え行動する場面も見られるようになってきた。しかし、初めて取り組む活動や集合学習など、他校と交わる場面では消極的な姿勢も見られるので、今後指導を進めていきたい。	3	3	4	
			大束中	・生徒会や実行委員会がリーダーシップを発揮して２学期の学校行事を盛り上げることができたが、「話し合いの場で、積極的に意見を出し、充実した活動にできた」と感じる生徒を増やすために、継続してリーダー育成に努める。	3			

４段階評価　「４」～期待以上　「３」～ほぼ期待どおり　「２」～やや期待を下回る　「１」～改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標		学校の自己評価コメント	自己評価 学校別	自己評価 総合	学校関係者評価委員 評価	学校関係者評価委員 コメント
体に関する内容	１体力向上プランに基づき、年間を通して主体的に体力を向上させようとする態度の育成を図る。	○体力テストの判定結果において、５種目で全国平均を上回る。	大束小	・今年の体力テストにおいて、男子は「握力」「５０m走」の２種目、女子は「握力」「５０m」「長座体前屈」「ソフトボール投げ」の４種目で全国平均を上回る結果だった。 ・４８項目中、男子は２８項目、女子は３１項目が昨年度より伸びており、体力の向上が見られた。一方で課題である上体起こしと反復横跳びは依然として全体的に低い。	2	2	3	・楽しみながら、体力を向上させているという取組は大変良い。 ・体力テスト結果の数値向上を目標とするのか、体を動かす楽しさを学習することによって、結果的に数値向上に繋げるのか、具体的な方向性を見いだしていく必要がある。
			大平小	・体力テストでは、５０m走以外の種目で県平均を上回り、14名中6名がＡ判定、4名がＢ判定であった。また、体つくりの運動の時間には、持久走等を取り入れ、体力の維持向上を図ってきた。今後も、縄跳び運動等を取り入れ、児童が楽しみながら体力を向上させる手立てを講じていきたい。 ・ボール運動等、人数が必要な種目に関しては、全校体育を行うなど、競技種目に合わせた授業スタイルを行い、多種多様なスポーツに触れる機会を設けた。	3			
			大束中	・球技種目のルールを工夫したり、長距離走では、楽しく走るために学校敷地内コースにしたフリーランニングを行うことで、生徒が楽しく活動する姿が見えた。 ・体力テストの判定結果において、「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」が本校の課題である。特に男子が見平均を下回る種目が多い。小学校と連携し、重点的に取組を継続していく必要がある。	2			
	２給食時の食育指導を通して、好き嫌いのない食生活を送ることができるようにする。	○「食べ残し０」週間を設け、期間中の残滓０の日の割合が８０%を目指す。	大束小	・栄養教諭を招聘し、食の大切さを専門的な立場から指導していただいた。 ・給食準備に職員が配膳の調整を行い、個に応じた適切な量を食べさせるようにしているため、給食をしっかり食べることができるようになってきている。「残さず食べる」意識調査では、７８%の達成率である。	3	3	3	・食への関心を高める指導が工夫されている。
			大平小	・全職員で個々の児童の実態に応じた給食指導を行い、ほぼ毎日、残菜ゼロを達成することが出来た。今後も、小規模校の利点を生かし、全職員で給食指導に当たり、食育を推進していきたい。	3			
			大束中	・残滓に関しては、全体的に目標を達成しており、少なくなってきている。 ・職員全員での日常指導を徹底し、個別指導にもスムーズに対応できている。	3			
家庭	１家庭や地域と連携して、「早寝・早起	○「朝ご飯」を食べて登校する子どもの割合が		・「朝ご飯」を食べて登校する児童の割合は９９%であった。その一方で、時々朝食を抜く場合も見られ、早寝･早起きを含めた生活リズムの				・家庭・地域の食への意識向上が必要である。

や地域との連携に関する内容	き･朝ご飯」「弁当の日」等の運動を通して、子ども達の健全育成に努める。	100%を目指し、かつ「栄養バランスのとれた朝ご飯摂取」の意識啓発に努める。 ○「弁当の日」を設定し、100%の児童・生徒が弁当の日に取り組む。	大束小	改善を呼びかけていく必要がある。 ・「弁当の日」については、実施率が９７％であった。保護者のアンケートでは、子どもとのコミュニケーションが高まったとの意見が多かった。この取組を続けることで、保護者、子どもたちの意識の変容につながっていくと考える。	3	3	3	・実態に即した「弁当の日」を実践しているのは、長続きする取組である。 「地産地消」に目を向けさせる取組をされていることは、大変意義深く、素晴らしいことである。
			大平小	・朝食を欠食する児童は見られず、毎朝元気に全児童が登校している。今後も、よい習慣を継続していくために、早寝早起きの指導と合わせて、指導を続けていきたい。 ・遠足の日を「弁当の日」として設定し、児童の発達段階に応じたコース設定を行うことで、全児童が弁当づくりに関わることが出来た。弁当の日には、「地産地消」食材を一品加えることも課題として与え、食への意識を高めることが出来た。	3			
			大束中	・「朝ご飯」を食べて登校する生徒が、ほぼ１００％近くになってきており改善傾向である。 ・栄養教諭を活用した授業を行うなど食に関する指導を重点的に行い、生徒の意識化を図った。 ・「弁当の日」の取組を強化し、指導の工夫・改善を図った結果、生徒の興味・関心が高揚し、弁当づくりに取り組む生徒が増えた。	4			